



基本ポリシーの設定

初期設定を完了してから、追加のインターフェイスとネットワークの設定、およびポリシーのカスタマイズを行います。

- [Firewall Device Manager へのログイン](#) (1 ページ)
- [初期設定の完了](#) (1 ページ)
- [ネットワーク設定とポリシーの設定](#) (9 ページ)

Firewall Device Manager へのログイン

Firewall Device Manager にログインして Firewall Threat Defense を設定します。

手順

ステップ 1 コンピューターの接続先のインターフェイスに応じて、ブラウザに次の URL を入力します。

- イーサネット 1/2 以降 : **https://192.168.95.1**
- 管理 1/1 : **https://management_ip** (DHCP から)

ステップ 2 ユーザー名 **admin**、デフォルト パスワード **Admin123** を使用してログインします。

初期設定の完了

初期設定を完了するには、最初に Firewall Device Manager にログインしたときにセットアップウィザードを使用します。セットアップウィザードの完了後、いくつかの基本ポリシーが適切に設定された、機能しているデバイスが必要です。

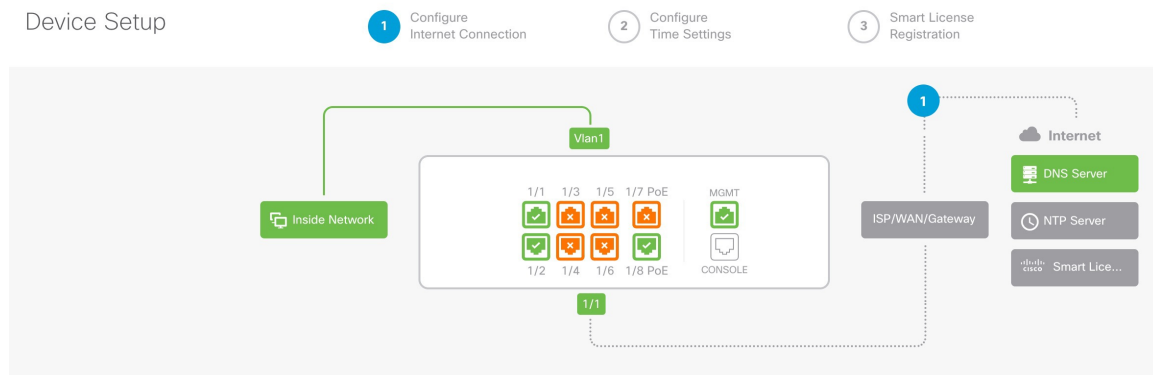
- 内部→外部トラフィックフロー
- 内部から外部へのすべての通信用のインターフェイス PAT。

手順

ステップ1 一般条件に同意し、管理者パスワードを変更します。

[**Device Setup**] 画面が表示されます。

図1:[デバイスの設定 (**Device Setup**)]



(注)

正確なポート設定は、モデルによって異なります。

ステップ2 外部インターフェイスおよび管理インターフェイスのネットワーク設定を指定します。

図 2: インターネットへのファイアウォールの接続

Connect firewall to Internet

The initial access control policy will enforce the following actions.
You can edit the policy after setup.

Rule 1 Trust Outbound Traffic	Default Action Block all other traffic
This rule allows traffic to go from inside to outside, which is needed for the Smart License configuration.	The default action blocks all other traffic.

Outside Interface Address

Connect Ethernet1/1 (Outside) to your ISP/WAN device, for example, your cable modem or router. Then, configure the addresses for the outside interface.

Configure IPv4

Using DHCP

Configure IPv6

Using DHCP

[NEXT](#) [Don't have internet connection? Skip device setup](#)

- a) **[Outside Interface]** : イーサネット 1/1。デバイスの初期設定時に別の外部インターフェイスを選択することはできません。

[Configure IPv4] : PPPoE が必要な場合は、ウィザードの完了後に設定できます。

IPv6 を設定する

- b) **[Management Interface]** : 専用の管理 1/1 インターフェイスのパラメータを設定します。CLI で IP アドレスを変更した場合、これらの設定はすでに構成済みのため表示されません。

[DNS Servers] : デフォルトは OpenDNS パブリック DNS サーバーです。

ファイアウォールのホスト名

- c) [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 3 システム時刻を設定します。

図 3: 時刻設定 (NTP)

Time Setting (NTP)

System Time: 11:56:20AM October 03 2024 -06:00

Time Zone for Scheduling Tasks

(UTC+00:00) UTC

NTP Time Server

Default NTP Servers

Server Name

0.sourcefire.pool.ntp.org

1.sourcefire.pool.ntp.org

2.sourcefire.pool.ntp.org

NEXT

- a) タイムゾーン
- b) [NTP Time Server]
- c) [次へ (Next)]をクリックします。

ステップ 4 スマート ライセンスを設定します。

Register with Cisco Smart Software Manager

Register with Cisco Smart Software Manager to use the full functionality of this device and to apply subscription licenses.

[What is smart license? ↗](#)

- Continue with evaluation period: Start 90-day evaluation period without registration**
Recommended if device will be cloud managed. [Learn More ↗](#)
 Please make sure you register with Cisco before the evaluation period ends. Otherwise you will not be able to make any changes to the device configuration.

- Register device with Cisco Smart Software Manager**
 Please register your device at this time. If you do not register now, you can register later from the Device > Smart License page.

- ① Create or log in into your [Cisco Smart Software Manager](#) account.

↓

- ② On your assigned virtual account, under "General tab", click on "**New Token**" to create token.

↓

- ③ Copy the token and paste it here:

↓

Token

```
MDM4MTdhNWEtNmExMC00NzMyLWE3YWMtMzY1MWVlOTM2Nm
E0LTE3NDU0MzI2%0ANjQyMjV8dUNPZnRLWDJhSFJ6bWc0YkFqVW
ZWQzJzd2JDN2dwRkxhbUhQeHhj%0AZUtnUT0%3D%0A|
```

- ④ Select the region in which your device is operating.

↓

Region

US Region

- ⑤ Enroll Cisco Success Network.

Cisco Success Network enablement provides usage information and statistics to Cisco which are essential for Cisco to provide technical support. This information also allows Cisco to improve the product and to make you aware of unused available features so that you can maximize the value of the product in your network.

Check out the [Sample Data](#) that will be sent to Cisco. [See more](#) ▾

Enroll Cisco Success Network

- ⑥ For a more detailed overview on Cisco Licensing, go to cisco.com/go/licensingguide ↗

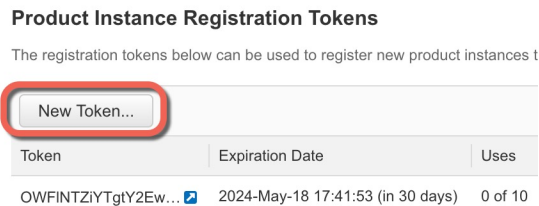
BACK

FINISH

- [Register device with Cisco Smart Software Manager] をクリックします。
- [Cisco Smart Software Manager] リンクをクリックします。
- [Inventory] をクリックします。



- d) [General] タブで、[New Token] をクリックします。



- e) [登録トークンを作成 (Create Registration Token)] ダイアログボックスで、以下の設定値を入力してから [トークンを作成 (Create Token)] をクリックします。

Create Registration Token ? x

This will create a token that is used to register product instances, so that they can use licenses from this virtual account. Once it's created, go to the Smart Licensing configuration for your products and enter the token, to register them with this virtual account.

Virtual Account: XXXXXXXXXX

Description:

* Expire After: Days
Between 1 - 365, 30 days recommended

Max. Number of Uses:

The token will be expired when either the expiration or the maximum uses is reached

Allow export-controlled functionality on the products registered with this token i

• 説明

- [有効期限 (Expire After)] : 推奨値は 30 日です。
- 最大使用回数 (Max. Number of Uses)
- [このトークンに登録された製品で輸出管理機能を許可する (Allow export-controlled functionality on the products registered with this token)] : 高度暗号化が許可されている国の場合は輸出コンプライアンスフラグを有効にします。この機能を使用する予定の場合、このオプションをここで選択する必要があります。後でこの機能を有効にする場合は、デバイスを新しいプロダクトキーで再登録し、デバイスをリロードする必要があります。このオプションが表示されない場合、アカウントは輸出規制機能をサポートしていません。

トークンはインベントリに追加されます。

- f) トークンの右側にある矢印アイコンをクリックして[トークン (Token)]ダイアログボックスを開き、トークン ID をクリップボードにコピーできるようにします。Firewall Threat Defense の登録が必要なときに後の手順で使用するために、このトークンを準備しておきます。

図 4: トークンの表示

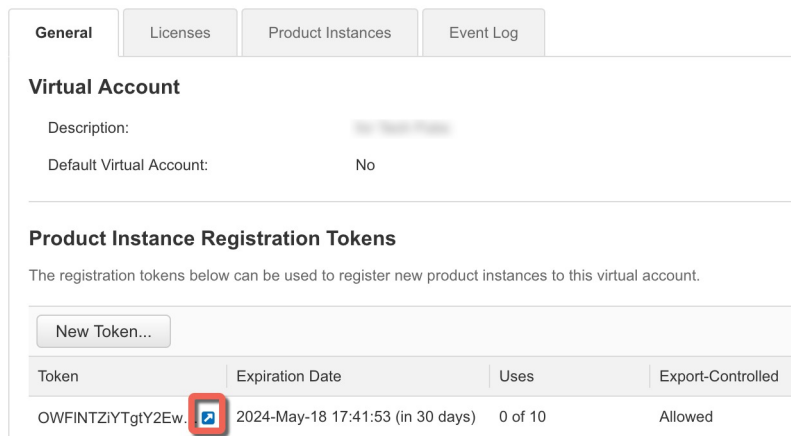
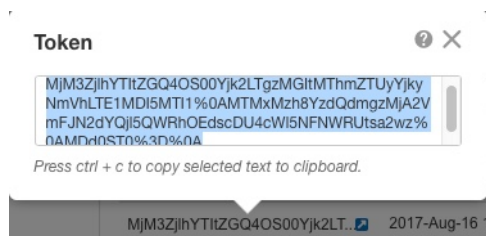


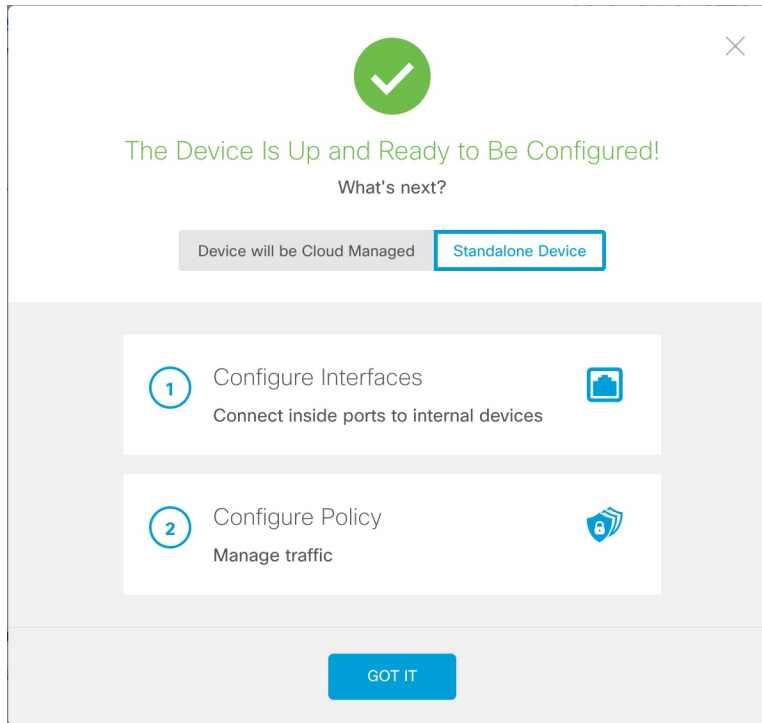
図 5: トークンのコピー



- g) Firewall Device Manager で、トークンをトークンフィールドに貼り付けます。
 h) その他のオプションを設定し、[Finish] をクリックします。

ステップ 5 セットアップウィザードを完了します。

図 6: 次のステップ

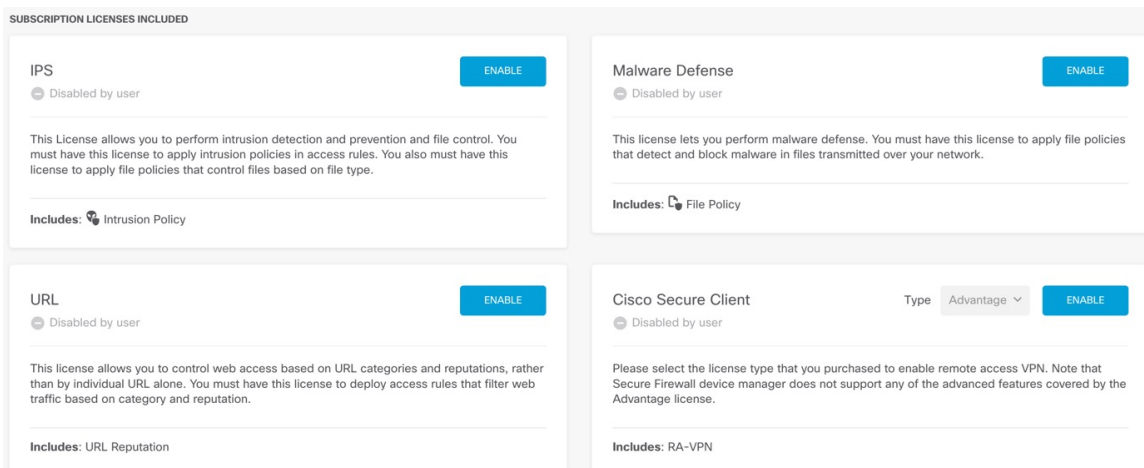


- [**Standalone Device**] をクリックして Firewall Device Manager を使用します。
- [**Configure Interfaces**] をクリックして [**Interfaces**] ページに直接移動するか、[**Configure Policy**] をクリックして [**Policies**] ページに移動するか、[**Got It**] をクリックして [**Device**] ページに移動します。

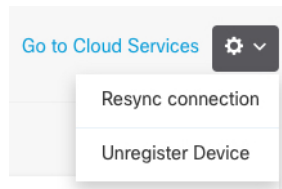
インターフェイスまたはポリシー設定については、「[ネットワーク設定とポリシーの設定 \(9 ページ\)](#)」を参照してください。

ステップ 6 機能ライセンスを有効化します。

- [**Device**] ページから [**Smart License > View Configuration**] の順にクリックします。
- それぞれのオプションライセンスの [**Enable/Disable**] コントロールをクリックします。



- c) 歯車ドロップダウンリストから [接続の再同期 (Resync Connection)] を選択して、Cisco Smart Software Manager とライセンス情報を同期させます。



ネットワーク設定とポリシーの設定

追加のインターフェイス、DHCPサーバーを設定し、セキュリティポリシーをカスタマイズします。

手順

-
- ステップ 1** スイッチポートをファイアウォール インターフェイスに変換する場合は、[**Device**] を選択し、[**Interfaces**] の概要のリンクをクリックします。
- スイッチポートの編集アイコン (🔗) をクリックします。
 - モードを [**Switch Port**] から [**Routed**] に変更します。

図 7: モードの変更

Ethernet1/3
Edit Physical Interface

Interface Name

Mode
Switch Port
Routed
Passive
Switch Port

Status

Description

Protected Port

Usage Type
Access Trunk

Access VLAN
inside (Vlan1)

CANCEL OK

c) 名前と IP アドレスを設定します。

図 8: インターフェイスの編集

Ethernet1/3
Edit Physical Interface

Interface Name: Mode: Status:

Most features work with named interfaces only, although some require unnamed interfaces.

Description:

IPv4 Address | IPv6 Address | Advanced

Type:

IP Address and Subnet Mask: /
e.g. 192.168.5.15/17 or 192.168.5.15/255.255.128.0

Standby IP Address and Subnet Mask: /
e.g. 192.168.5.16

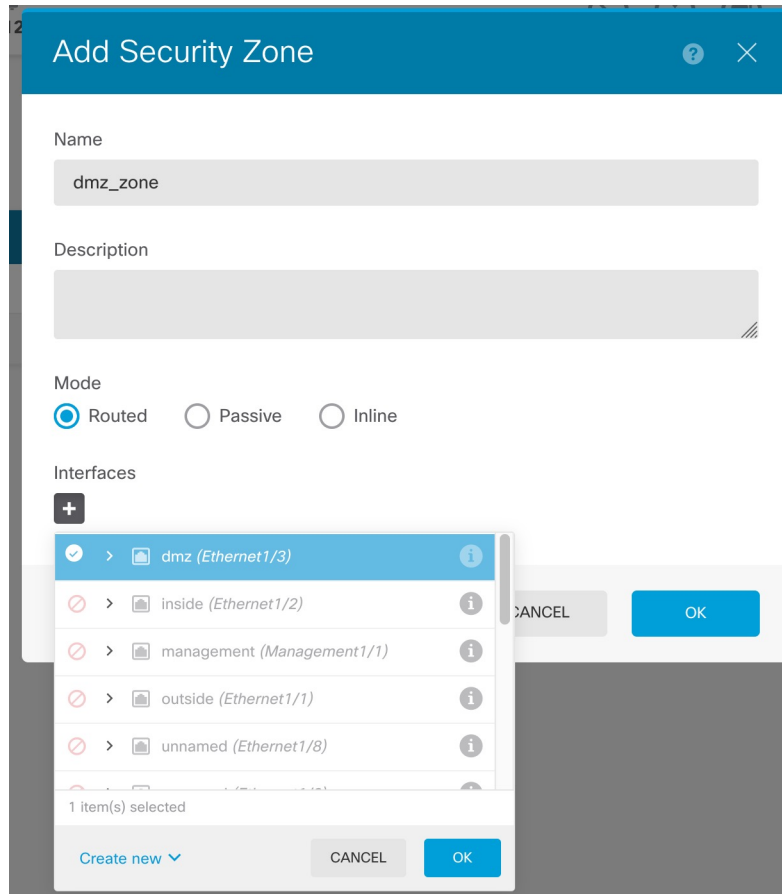
d) [OK] をクリックします。

ステップ 2 新しいファイアウォールインターフェイスを構成する場合は、[Objects]、[Security Zones] の順に選択します。

必要に応じて新しいゾーンを編集または作成し、インターフェイスをそのゾーンに割り当てます。各インターフェイスは、ポリシーを設定するゾーンに属している必要があります。

次の例では、新しい `dmz_zone` を作成し、それに `dmz` インターフェイスを割り当てる方法を示します。

図 9: セキュリティゾーンオブジェクト



- ステップ 3** 内部クライアントで DHCP を使用してデバイスから IP アドレスを取得する場合は、**[Device > System Settings > DHCP Server]** の順に選択してから **[DHCP Servers]** タブを選択します。
- すでに内部インターフェイス用に構成されている DHCP サーバーがあります。

図 10: DHCPサーバー

ステップ 4 [ポリシー (Policies)] を選択してネットワークのセキュリティポリシーを構成します。

デバイスセットアップウィザードでは、信頼ルールを使用して、`inside_zone` と `outside_zone` 間の通信フローを有効にできます。信頼ルールでは侵入ポリシーを適用しません。侵入を使用するには、ルールに対して許可アクションを指定します。ポリシーには、外部インターフェイスに向かうときのすべてのインターフェイスのインターフェイス PAT も含まれます。

図 11: デフォルトのセキュリティポリシー

#	NAME	ACTION	SOURCE			DESTINATION			APPLICATIONS	URLS	USERS	ACTIONS
			ZONES	NETWORKS	PORTS	ZONES	NETWORKS	PORTS				
1	Inside_Outside...	Trust	inside_zone	ANY	ANY	outside_zone	ANY	ANY	ANY	ANY	ANY	

ただし、異なるゾーンにインターフェイスがある場合は、それらのゾーンとの間の通信を許可するアクセス制御ルールが必要です。

さらに、追加のサービスを提供するために他のポリシーを設定し、組織が必要とする結果を取得するために NAT およびアクセスルールを調整することができます。ツールバーでポリシータイプをクリックすることで、次のポリシーを設定できます。

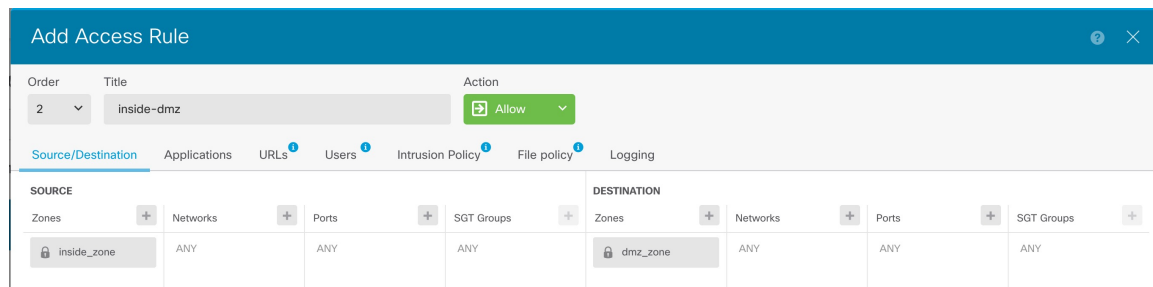
- [SSL復号 (SSL Decryption)] : 侵入、マルウェアなどについて暗号化された接続 (HTTPS など) を検査する場合は、接続を復号化する必要があります。どの接続を復号化が必要があるかを判断するには SSL 復号ポリシーを使用します。システムは、検査後に接続を再暗号化します。
- [アイデンティティ (Identity)] : 個々のユーザーにネットワーク アクティビティを関連付ける、またはユーザーまたはユーザーグループのメンバーシップに基づいてネットワーク アクセスを制御する場

合は、特定のソースIPアドレスに関連付けられているユーザーを判定するためにアイデンティティポリシーを使用します。

- **[Security Intelligence]** : (IPS ライセンスが必要) ブラックリスト登録済みの IP アドレスまたは URL の接続をただちにドロップするには、セキュリティインテリジェンスポリシーを使用します。既知の不正なサイトをブラックリストに登録すれば、アクセスコントロールポリシーでそれらを考慮する必要がなくなります。Cisco では、セキュリティインテリジェンスのブラックリストが動的に更新されるように、既知の不正なアドレスやURLの定期更新フィードを提供しています。フィードを使用すると、ブラックリストの項目を追加または削除するためにポリシーを編集する必要がありません。
- **[NAT]** (ネットワークアドレス変換) : 内部 IP アドレスを外部のルーティング可能なアドレスに変換するために NAT ポリシーを使用します。
- **[アクセス制御 (Access Control)]** : ネットワーク上で許可する接続の決定にアクセスコントロールポリシーを使用します。セキュリティゾーン、IP アドレス、プロトコル、ポート、アプリケーション、URL、ユーザーまたはユーザーグループによってフィルタ処理できます。また、アクセス制御ルールを使用して侵入やファイル (マルウェア) ポリシーを適用します。このポリシーを使用して URL フィルタリングを実装します。
- **[侵入 (Intrusion)]** : 侵入ポリシーを使用して、既知の脅威を検査します。アクセス制御ルールを使用して侵入ポリシーを適用しますが、侵入ポリシーを編集して特定の侵入ルールを選択的に有効または無効にできます。

次の例は、アクセス制御ポリシーで `inside_zone` と `dmz_zone` の間の通信を許可する方法を示しています。この例では、[接続の最後で (At End of Connection)] が選択されている場合、[ロギング (Logging)] を除いて他のいずれのタブでもオプションは設定されません。

図 12: アクセスコントロールポリシー



ステップ 5 [デバイス (Device)] を選択してから、[更新 (Updates)] グループで [設定の表示 (View Configuration)] をクリックし、システムデータベースの更新スケジュールを設定します。

侵入ポリシーを使用している場合は、ルールと VDB のデータベースを定期的な更新を設定します。セキュリティ情報フィードを使用する場合は、それらの更新スケジュールを設定します。一致基準としてセキュリティポリシーで地理位置情報を使用する場合は、そのデータベースの更新スケジュールを設定します。

ステップ 6 メニューの **[Deploy]** ボタンをクリックし、**[Deploy Now]** ボタン () をクリックして、変更内容をデバイスに展開します。

変更は、それらを展開するまでデバイスで有効になりません。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。